

## スマートフォンファースト時代における新しいテレビ視聴 ～現存コンテンツを活用した視聴スタイルの提案～

[2017・FW] 21421069 高橋明日香

### 1. 研究の背景と意義

今まで、テレビはメディアの中で1位の地位を保ち続けてきた。しかし、現在はスマートフォンやインターネットなどが急伸し、今後もその地位をテレビが維持できるかは分からない。したがってテレビ局を中心とした放送事業者（以下、放送事業者）は、今後も地位を維持するために、現状で手を打つことが必要である。放送事業者もスマートフォンが普及し始めた2012年頃から、スマートフォンをテレビのセカンドスクリーンとして活用する取り組みを行い始めた。SNSが人々の間で浸透している現在において、スマートフォンは常に見るメディアになってきている。このスマートフォンファーストの時代では、これまでのスマートフォンを活用した取り組みが視聴者とテレビの接点として有効か、さらに良い取り組みはないかを知りたいと考えた。本研究の意義は、テレビとスマートフォンの連携という取り組みの可能性や今後テレビが伸びていくための方法を研究・提案することで、更なるテレビ離れを防ぐと共に放送事業の再定義につながることにあると考える。また、テレビ広告市場を含めたテレビ市場の維持・拡大にもつながっていくことも考えられる。

### 2. 研究目的・方法

本研究の目的は3つある。第1に、テレビ視聴の変遷を明らかにすることである。視聴者の生活とともに、視聴スタイルも変化してきたことを整理する。第2に、テレビとスマートフォンを連携する取り組みの現状を明確にすることである。時代に合わせた取り組みなのかを明らかにする。第3に、今後テレビが伸びていくための新しいテレビの視聴スタイルを提案することである。研究方法は、先行研究と事例調査である。テレビ視聴の変遷や現状・課題を文献・インターネットで調査し、スマートフォンを活用した取り組み事例をテレビ番組公式ホームページやSNSアカウント等で調査する。

### 3. 研究結果・考察

#### (1) 5つの番組の取り組み事例

共通点を3つ挙げる。第1に、番組の内容によって視聴者を惹きつける必要があることだ。視聴し、投稿までしてもらうためには番組の内容が大切である。第2に、SNSで視聴者は自由に発言することだ。強制せず、視聴者が一緒に番組を楽しんで盛り上げる工夫でないと受け入れても

らいがたい。第3に、現在のSNS活用の取り組みは対話を目的としていないことだ。現状、視聴者にリアルタイム視聴をしてもらうためにSNSを活用しているに過ぎない。

#### (2) 現存コンテンツを活用した視聴スタイルの提案

以上のことを踏まえた上で、現在のスマートフォンファーストの時代に合った、現存コンテンツを活用した視聴スタイルを提案した。図のように、リアルタイム視聴からスタートしてSNSによって周囲に拡散し、視聴の輪を広げていく視聴スタイルにしていく必要がある。現在も視聴者の間で自主的に行われており、視聴率や動画配信サービス再生数が伸びるなど好影響が出ている。この動きを放送事業者がサポートし、整備することで番組自体の活性化にもつながる。これは視聴者にとって、ムーブメントを自分が作ることに出来る機会や視聴者同士のつながりなど、新しい価値が提供できる。しかし課題として、権利の問題や番組制作上の問題が挙げられる。

### 4. 結論

現在のスマートフォンファースト時代において、SNSを活用することはテレビに好影響を及ぼす。しかし、視聴者の輪を広げるための活用をする必要がある。SNSや現存の1週間無料動画配信サービスを連動させることで、視聴の輪が広がり、視聴者にとっても価値のあるテレビになっていく。そのためには、放送事業者中心となって視聴者目線の番組制作をすることはもちろん、SNS上で動画を発信できるように権利を変更するなど視聴環境を整備することが重要である。

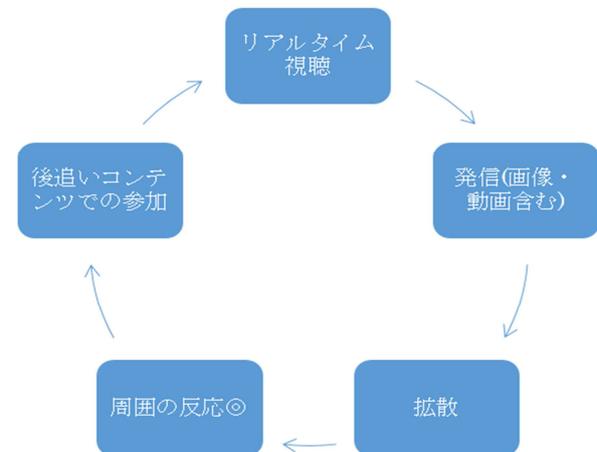


図 現存コンテンツを活用した視聴スタイル